

ペテロ第一1章3節「復活による生ける望み」

1A 聖書の預言

1B 罪による死

2B 復活の希望

3B キリストの甦り

2A イエスご自身の預言

1B 「三日目の甦り」

2B 無罪ゆえの死の勝利

3B 昇天と再臨

3A 復活の証拠

1B 新約聖書の書かれた時期

2B 生ける証人による証言

3B 殉教者&変えられた人生

本文

私たちは、キリストの復活について、聖書の言葉からじっくりと考え、祈り、そして応答する時を持ちたいと思います。ペテロの手紙第一、1章3節をお読みします。

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。

先ほど、舟から飛び降りて、泳いで岸辺まで行ったペテロが書いた手紙です。ペテロは、イエスが復活されたことによって、私たちは新しく生まれることができ、そして「**生ける望み**」を持つようにして下さった、と言います。私たちの望みには、気休めのものがあります。「このようなものがあつたらいいなあ」という希望的観測があつて、それを思い描いていれば心が休まるという類いのものです。ペテロはそのような希望と全く異なることを、「生ける希望」と言って区別しています。実質のない希望ではなく、実体のある希望、本当の希望なのだと述べています。

イエス・キリストの復活によって、ユダヤ人を恐れ隠れていた弟子たちが百八十度変えられました。ここからキリスト教が生まれました。そして激しい弾圧を受けても、それでも信仰を捨てずにキリスト者は生き延び、広がりました。そして今現在も、世界中でキリストの復活に希望を持った人たちが、百八十度、その人生を変えられています。今日は、この復活の希望が私たち一人一人にも与えられていることをお話したいと思います。

1A 聖書の預言

この世にある原則というのは、「古くなって死んでいく」という原則です。何か新しいものがあるとしても、それは過去にもあったことで実は前から存在していました(伝道者 1:10)。世の中のすべてのものは移ろいやすく、古くなり、やがて滅びていきます。

1B 罪による死

聖書はそれを、「罪と死の原理」と読んでいます。人がなぜ死ぬのか、また世界がなぜ古くなっていくのか、それははっきりと原因を教えています。神が初めに造られた人、アダムが、食べてはならないと言われた、善悪の知識の木の実を取って食べたからです。そのために、永遠に生きるように造られた人に、死が入り込みました。聖書にははっきりと、「罪を犯した魂は必ず死ぬ。(エゼキエル 18:4)」と教えています。

2B 復活の希望

そこで私たち人間は、死ぬことが分かっているのに生命を得ているという矛盾の中に生きています。そのようなことを考えるのは、苦しみに会う時です。普段は何も考えていなくても、病にかかったり、周りの人で不幸なことがあれば、自分は何のために生きているのか？なぜ死ぬのに、生まれてきたのか？死んだ後はどうなるのか？という、命の根本についての問いをするようになります。そんな人が旧約聖書に出てきます。ヨブです。彼は財産をすべて失い、息子、娘の十人をすべて失い、そして重い皮膚病にかかりました。その中で彼が呻いて叫んだのは、次の言葉です。「19:25-27 私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。この方を私は自分自身で見る。私の目がこれを見る。ほかの者の目ではない。私の内なる思いは私のうちで絶え入るばかりだ。」今、ぼろぼろになった皮膚が剥がれて、死んでしまっても、自分は新しい体を得て、それで神を見るのだと叫んだのです。

3B キリストの甦り

死んでもまた生きる、という希望を人々は抱きました。しかし、今、話しましたように、人は罪を犯して、死ななければいけません。死んで、神から裁きを受けなければいけません。この罪と死の法則を打ち破らなければいけません。それで、聖書では今から三千年前から、罪なき選ばれた者、キリストが墓から甦ることを預言していました。「まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。(詩篇 16:10)」神の聖なる者が墓の中で死んだままにさせず、神はこの者を甦らせることを約束されたのです。

2A イエスご自身の預言

1B 「三日目の甦り」

イエスが、この地上におられた間、何度となくご自分が三日目に甦ることを予告しておられました。「さてイエスは、十二弟子をそばに呼んで、彼らに話された。「さあ、これから、わたしたちはエルサ

レムに向かって行きます。人の子について預言者たちが書いているすべてのことが実現されるのです。人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」(ルカ 18:31-33)」これだけはっきりと、わたしは甦ると教えられました。(人の子とは、キリストを示す別の呼び名です。)普通の人であれば、そんなことを言ってその通りになるわけないから、この人はおかしくなっている、または大ウソつきだということになります。確かに、イエスが甦らなければ、この人は嘘つきか頭がおかしい人になります。しかし、本当に甦ったのだという事実を記録しているのが、この新約聖書であります。

2B 無罪ゆえの死の勝利

したがって、罪と死の原則しかないこの世において、命の法則が働き始めました。キリストによって罪の赦しと永遠の命の希望を与えられたのです。キリストは、罪と死の問題を根こそぎ取り除かれました。ご自身は全く罪を犯していないのに、私たち一人一人の罪を身代わりにして受けてくださったのです。ですから、キリストに信頼を置く者は、自分自身の罪が、キリストにあって罰せられたので、自分が罰を受ける必要がなくなりました。キリストが十字架において、その罪の力を打ち破られたのです。

そして、無罪の者が死の中には留まることができません。人間の法廷は不完全ですか冤罪というものがありますが、それでも本当に無実な人は再審になったりして、死刑の判決が出たとしても罰を免れ生還することができます。同じように、罪を何一つ犯さなかった方が死罪に定められ、死んでしまっても、そこには生きる力が与えられています。ちょうどそれは、固い殻に囲まれた種であっても、地中に埋められるとその殻を破って芽を吹き出すのと同じです。キリストは地中に埋められた種のように、墓に葬られました。確かにその体は死にました。しかし、その死の姿から立ち上がったのです。「ヘブル 2:14-15 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」「1コリント 15:55 死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

3B 昇天と再臨

イエス様は、マルタに対して「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。(ヨハネ 11:25)」と言われました。キリストが甦られたように、キリストに信頼を置く者も死んでも甦るのだという約束を与えられました。キリストは私たちの罪のために死なれました。それゆえ、私たちは自分の罪が取り除かれ、神の前に罪のない者として出ていくことができるようになりました。「ローマ 4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」ですから、キリストが死なれても、また甦られたように、義とみなされた私たちも、死んでもまた甦るのです。

それをしてくださるのは、キリストが天から戻ってきてくださる時です。イエス様は甦られて、四十日経ってから天に昇られて、父なる神の右の座に着いておられると聖書に書かれています。そして主はそこから降りてきてくださいます。「1テサロニケ 4:16-17 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」キリストが戻ってこられる時、まだ生きている者は引き上げられますが、すでに死んでいる人たちは甦って、それで引き上げられます。

だから私たちは、再来されるキリストを熱心に待ち望んでいます。甦られたキリストは、私たちをも甦らせ、ご自分の元に引き寄せられるのです！

3A 復活の証拠

もう一度、繰り返しますが、キリストの復活は、それが良いお話だから教会は伝えているのではありません。そうではなく、これが紛れもない事実だからお伝えしています。教会は、思想や哲学を教えているのではなく、人間の歴史の中で実際に、イエスが死んで、墓に葬られていたのに、三日目に甦ったのだという事実を宣べ伝えるために存在しています。歴史の中で、初めはキリスト教に猛反発していた人が信仰に至ったという事例は数多くあります。これが間違っていることを証明するために聖書を読み、徹底的に調べた結果、かえって復活が事実であったことを知って、この方信じて、人生が変えられています。映画の名作「ベン・ハー」の原作者、ルー・ウォーレスはその一人です。¹

1B 新約聖書の書かれた時期

新約聖書を読んだことのある人は、イエスがすばらしい宗教家であり、教師であるという話で終わらせることは決してできません。私たちは、公園で、この礼拝のことをお知らせするために集まっていました。私たちが教会の者であることを知ると、ある人が近づいてきて「人間イエスは、偉大な人物であるが、あなたがたは哀れな子羊だ。」と言い始めました。私はすかさず、「イエスが復活したことを信じていますか。」と尋ねました。「信じていない。」と答えました。そして私は尋ねました。「聖書を読んだことがありますか。」その人は、「ない」と答えるのです。聖書を一度も読んだことがないのに、復活は絶対に起こらなかったと断言して、しかもそれを信じている私たちクリスチャンが哀れな人であると罵ることができるのです。これまで、反対する人々に同じ質問をしてきました。「キリストの復活は信じますか。」そして「聖書を読んだことがありますか。」であります。聖書を読めば、その真偽はともあれ、イエスが死者の中から甦られたことがそのメッセージの中心であり、それを自分たちが目撃したのだと主張して宣べ伝えているキリストの弟子たちがいることは、あまりにも明白なのです。

¹ http://blogs.yahoo.co.jp/elisha_hagiwara/4666897.html

そして果たして、その通りなのかどうか？という問いになります。「死者が復活するなど、科学的にどう証明するのか。」という反対意見があります。もちろん、自然科学の法則によっては証明できません。死者の甦りを実験で観察することはできないからです。けれども、私たちは法的な証拠、歴史学の証拠、考古学の証拠を信じています。それが科学的に証明できずとも、歴史事実として認めているものは数多くあります。考古学としては、あまりにも明白がエジプトのピラミッドがありますね。その建造物の謎はまだまだ全然、解き明かされていません。けれども事実として厳然としています。

私は日本人の方に尋ねます。「豊臣秀吉が存在していたことを信じますか？」当然、ほとんどすべての人が信じています。「なぜですか？」と尋ねます。「そりゃあ、教科書に載っているから。」と答えますが、ちょっとこれはやばいですね。国の言うことはすべて信じることになりますからね。そうではなく、あまりにも数多い文献資料があり、大阪城など考古学発見があるからです。新約聖書について、そこに書かれていることについて、おそらく豊臣秀吉が存在していたという資料に匹敵する程の量や質があると思います。新約聖書の写本が五千以上あることだけでも、信じがたい数であります。

そして新約聖書は、直に見たのだと主張している人々によって書かれています。ずっと後世に書かれたものだという解説本が日本では多く出回っていますが、それはやはり読んだことのない、あるいは真剣に読んでいないから出てくる結論です。先月、私たちはオウム真理教による地下鉄サリン事件が起こってから二十周年を迎えたニュースが入りました。だれも、オウム真理教の引き起こした事件を、「作り話だ」という人はいません。私たちはその時、アメリカに住んでいましたが、それでも都心でこの事件が起こったことを信じて疑いません。なぜなら、あまりにも多くの目撃者がおり、被害者も生存しており、写真もあり、記録があるからです。新約聖書も実際に書いた人々は、同じように多くが二十年、三十年後に書き記しています。あまりにも生々しい記録です。

2B 生ける証人による証言

最も強力な証拠は、イエスの復活を目撃した人々が、その証言を、拷問を受けても、殉教しても変えなかったという事実です。「1コリント 15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいます。」十二使徒は、ヨハネを除きすべて殉教しました。その他の弟子たちも、どんな拷問を受けても、否定せずに死んでいきました。命をかけて、世界にイエス・キリストを宣べ伝えたのですが、自分たちが嘘を付いているのであれば、そんなことはできません。

私は、脱北者を手助けして当局に捕えられて拷問を受けた人の話を聞いたことがあります。三日間、一睡もさせずに朦朧とさせます。そして、何度も同じことを尋問します。こうやって拷問する時には、どんなに作った話でもどこかで真実が出てきます。だからこそ、多くの国で残念ながら拷

問という手段によって、自白させようとするのです。ですから、「何も知らないほうがよい。」という結論なのです。しかし、イエスの復活の証言は使徒たちだけでなく、数多くの人が目撃していますから、たとえ数人であっても、申し合せて「こういう話にしておこう」と言っても、誰かが折れて、真実を語ってしまいます。またどこかで話に辻褄が合わなくなり、作り話は総崩れになります。ところが、そのようなことは何も起こらなかったのです。

3B 殉教者&変えられた人生

そしてイエスの復活を目撃せずとも、命をかけて信じていった人々が教会の歴史を通じて見ることができます。イタリアに行けば、世界遺産のコロセウムがありますが、そこでは生きたままクリスチャンたちがライオンに喰い殺され、また生きたまま火あぶりにされましたが、それでも信仰を捨てませんでした。日本では、キリシタンがとんでもない、信じられないような拷問を受けました。そして最近では、21人のエジプト人クリスチャンが、リビアでイスラム国によって斬首されましたが、首が切られる直前に「イエスへの信仰を捨て、ムスリムになるなら許してやる。」と言われていたけれども、「わが主イエス」と叫んで切られた、とされています。もし、イエスの復活は嘘だったかもしれないと思っていたら、そんなことのために自分の命は捨てられません。事実、イエスが甦ったことを確信しているから、命を差し出すことができるのです。

そして、私も含め、キリストの復活を信じている者たちは、自分自身に復活の力が与えられたので、信仰を告白しています。私の友人には、元麻薬中毒者がいます。つい数週間前には、ここで刑務所にも入ったことのある元ヤクザの人で牧師になった人が、聖書の言葉を語りました。私たちの教会にも、治りそうもない精神的病から解放されています。どうして、偽物からそうした力が出てくるのでしょうか？イエスが、昔活躍した宗教家だけであったなら、どうして今の私たちにそれほど力を与えるのでしょうか？むしろ、確かにイエスが今も生きているから、だから変えられていると見るほうが論理的ではないでしょうか。

聖書には、「福音は、**..信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。(ローマ 1:16)**」とあります。理解ではなく、力とあるのです。自分には理解できなくても、自分に生ける希望を与える力なのです。イエスを自分を罪から救う方、救い主として信頼しますか？そうすれば、ここに書かれているように、救われるのです。